

要介護者の旅行の実態と介護者の意識

研究開発室 水野 映子

—要旨—

- ① 介護を必要とする人やその家族の旅行の実態と旅行に対する意識を明らかにするため、家族を現在介護している800人を対象とするアンケート調査を実施した。
- ② 要介護者（介護を必要とする家族）との旅行の特徴としては、「個人旅行」が大半（92.1%）であり、「自家用車」の利用が多い（70.6%）ことなどがあげられる。
- ③ 旅行経験者（要介護者と旅行したことがある回答者）の7割以上は、自分や要介護者が「旅行を楽しめた」「旅行で気分転換ができた」「旅行に満足できた」と答えている。また、「旅行することは要介護者の心身のためになる」「要介護の親を旅行に連れていくことは親孝行になる」と思う割合は旅行経験者で特に高く9割近くを占める。旅行経験者は要介護者との旅行の効用を高く評価しているといえる。
- ④ 要介護者が旅行するための「設備やサービスは不足している」「情報は不足している」と思う割合、「旅行を希望する要介護者がもっと旅行できるようになるとよい」と思う割合は、旅行経験の有無を問わずいずれも8割を超えている。より多くの要介護者やその介護者が旅行の効用を享受できる環境の整備が望まれる。

1. 調査の概要

介護を必要とする人は増加し、本人やその家族の生活のさまざまな面に影響を与えている。旅行などの余暇生活もそのひとつであり、自分自身や家族に介護が必要のために旅行できない人がいることは既存調査からも示唆されている（水野 2012b）。しかしそうした人の中には、旅行すれば心身に良い効果を得られる人も少なくないと思われる。

そこで筆者は、介護を必要とする人やその家族の旅行の実態および旅行に対する意識を把握し、彼らが旅行しやすくなるための課題を検討するため、介護を必要とする人の家族を対象にインターネットを用いたアンケート調査を2011年11月に実施した。回答者として抽出したのは、家族を「現在、介護している」と答えた全国の男女800名である。調査は株式会社クロス・マーケティングに委託した。

介護を必要とする家族（以下、「要介護者」*¹）との旅行の意向や旅行に対する不安、旅行時の困難、旅行経験がない理由などについての調査結果、およびそれらから

示された要介護者の旅行の阻害要因や課題については既に述べた（水野 2012a）。本稿では、要介護者の旅行の実態とその効用、および旅行に対する介護者の考えについての調査結果を紹介する。

2. 要介護者の旅行の実態と効用

(1) 要介護者との旅行経験

要介護者に介護が必要になった後、その要介護者と一緒に旅行したことがあるか（アンケート調査では1泊以上の旅行を「旅行」と定義）をたずねたところ、回答者の28.5%が「ある」、71.5%が「ない」と答えた（水野 2012a）。以下では前者を「旅行経験者」、後者を「旅行非経験者」と表記する。

旅行経験者がこれまでに要介護者と旅行した回数は、1回が39.0%、2回が25.9%、3回が8.8%、4回以上が26.3%である（図表省略）。すなわち、要介護者とは1回しか旅行していない人が最も多いが、何度も旅行している人も少なからずいる。

(2) 回答者・要介護者の属性

図表1には、回答者（旅行時・現在の旅行経験者、現在の旅行非経験者）の属性、およびそれぞれの要介護者の属性を示す。

図表1 回答者・要介護者の属性

(単位:%)

[回答者]^{注1}

	性別			年齢					
	男性	女性	計	30歳未満	30代	40代	50代	60歳以上	計
経験者(旅行時)				9.2	21.9	32.9	25.9	10.1	100.0
経験者(現在)	57.0	43.0	100.0	7.9	15.4	32.0	31.1	13.6	100.0
非経験者(現在)	54.4	45.6	100.0	8.6	12.4	31.1	30.4	17.5	100.0

[要介護者]^{注2}

	回答者からみた続柄							計
	自分の父親	自分の母親	配偶者の父親	配偶者の母親	祖父母	配偶者	その他	
経験者(現在)	21.9	32.0	3.9	11.8	10.1	12.3	7.9	100.0
非経験者(現在)	23.3	39.0	5.1	11.5	14.2	2.4	4.5	100.0

	年齢					要支援・要介護度					
	60歳未満	60代	70代	80歳以上	計	要支援	要介護1~2	要介護3~5	認定は受けていない	わからない	計
経験者(旅行時)	19.7	12.3	29.4	38.6	100.0	22.8	32.9	24.6	11.4	8.3	100.0
経験者(現在)	12.7	7.9	27.2	52.2	100.0	18.4	32.9	32.5	9.2	7.0	100.0
非経験者(現在)	4.7	7.9	28.5	58.9	100.0	13.0	30.8	38.9	9.3	8.1	100.0

注1：「経験者（旅行時）」とは旅行経験者（n=228）の旅行時の属性、「経験者（現在）」とは旅行経験者（n=228）の現在の属性、「非経験者（現在）」とは旅行非経験者（n=572）の現在の属性

注2：「経験者（旅行時）」とは旅行経験者（n=228）の要介護者の旅行時の属性、「経験者（現在）」とは旅行経験者（n=228）の要介護者の現在の属性、「非経験者（現在）」とは旅行非経験者（n=572）の要介護者の現在の属性

資料：水野映子「要介護者の旅行を阻害する要因」『Life Design Report』（Summer 2012.7）の図表2より抜粋

(3) 要介護者との直近の旅行の実態

本節では、旅行経験者に対して直近の旅行の実態についてたずねた結果を述べる。

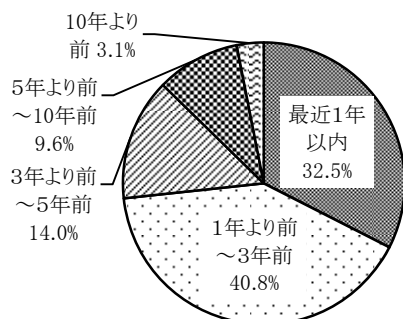
旅行の時期は、図表2の通り「最近1年以内」が32.5%、「1年より前～3年前」が40.8%である。すなわち、7割以上の方が3年以内に旅行している。

旅行先は「国内」(96.9%)が大多数であり、「海外」(3.1%)に行った人はほとんどいない(図表省略)。

旅行の形態は、図表3の通り「個人旅行」(92.1%)が大半である。「主に要介護者やその家族を対象とした団体旅行」(5.3%)や「一般の団体旅行」(2.6%)の割合はわずかである。一般の人の旅行に比べても要介護者の旅行では団体旅行の割合が極めて低い*2。

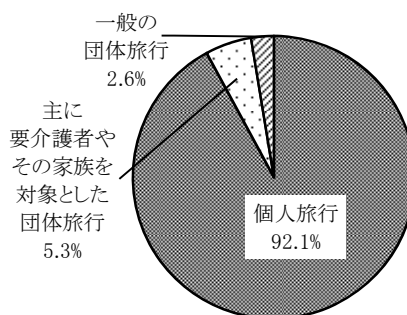
図表2 旅行の時期

(n=228)



図表3 旅行の形態

(n=228)



宿泊数は「1泊」(65.8%)が最も多く、「2泊」(19.3%)、「3泊」(10.1%)、「4泊以上」(4.8%)と宿泊数が多いほど割合は低い(図表省略)。平均宿泊数は1.60泊である。また、宿泊先は図表4の通り「ホテル(洋式)」と「旅館(和式)」がともに43.4%である。宿泊数や宿泊先は一般の人の旅行とさほど差がない。

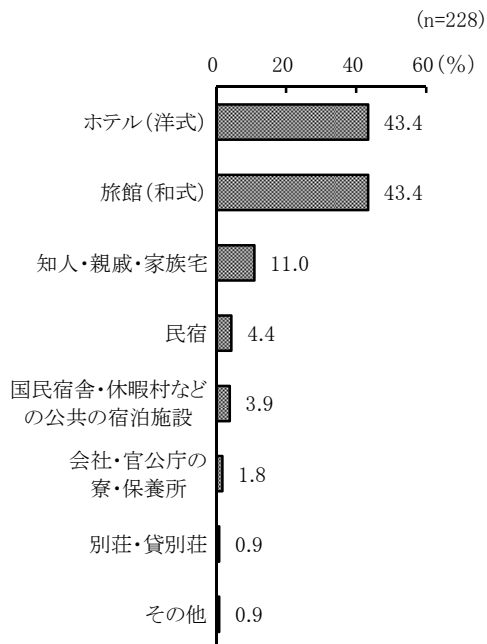
旅行先でおこなったことは、図表5の通り「温泉浴」(60.5%)、「自然の風景を見る」(54.8%)、「特産品等の買い物・飲食」(43.4%)の順に多い。温泉浴が旅行先での行動の上位を占める点は一般の人の旅行とおおむね同じである。

旅行で利用した交通機関は、図表6の通り「自家用車」(70.6%)の割合が最も高く、2位の「鉄道」(17.1%)を大きく引き離している。また、主に利用した交通機関も「自家用車」(67.1%)の割合が圧倒的に高い。「レンタカー」(7.9%)と合わせると、4人に3人は主な交通機関として自動車を使っている。一般の人の旅行に比べても自動車の利用割合は非常に高い。

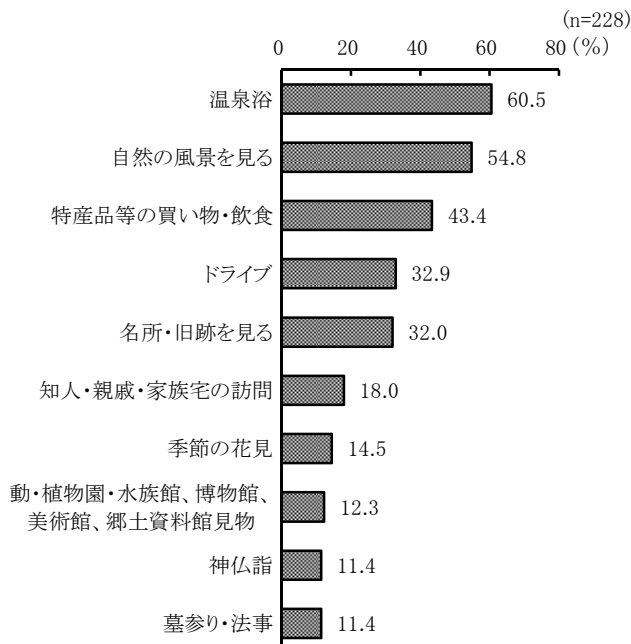
回答者と要介護者以外に一緒に旅行した人(回答者からみた続柄)は、図表7の通り「配偶者」(54.8%)、「親」(41.7%)など、家族・親戚が約9割を占めており、それ以外の人ほとんどいない。団体旅行に参加する要介護者が極めて少ないという前述の結果にも示されているように、要介護者との旅行に家族・親戚以外の人同行

せず、介護スタッフなどの家族外の人的資源も旅行では活用されていないことがわかる。

図表4 宿泊先<複数回答>

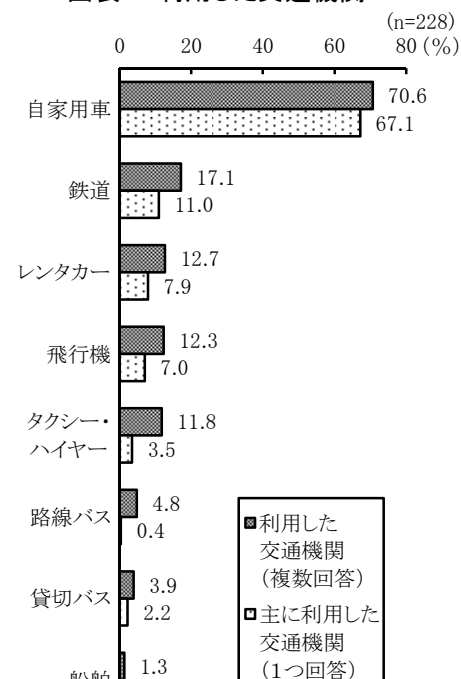


図表5 旅行先でおこなったこと<複数回答>



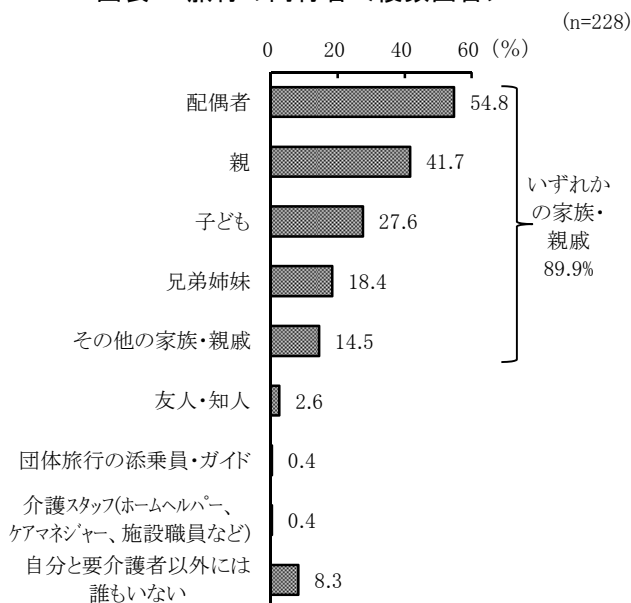
注：「その他」「忘れた」の結果は省略

図表6 利用した交通機関



注：図表5と同じ

図表7 旅行の同行者<複数回答>



いずれかの家族・親戚 89.9%

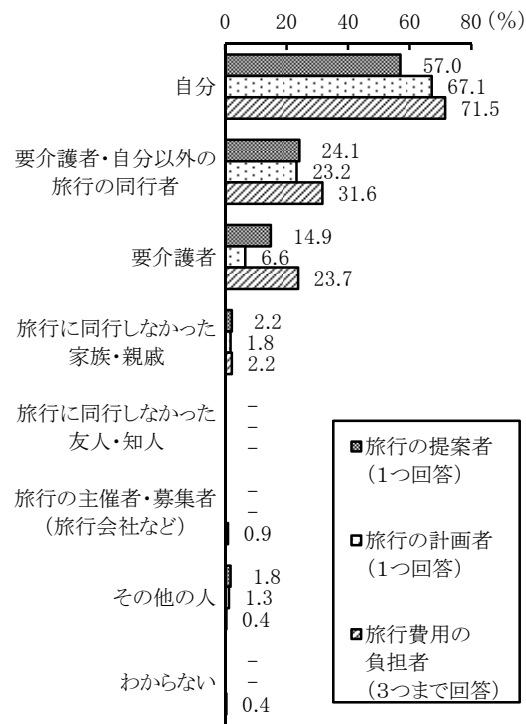
注1：回答者からみた続柄

注2：「家族・親戚や友人・知人以外の団体旅行の参加者」「医療スタッフ(医師、看護師など)」「その他の人」と回答した人はいなかったため、グラフでは省略

旅行を主に提案した人は、図表8の通り「自分」(57.0%)が過半数で、次が「要介護者・自分以外の旅行の同行者」(24.1%)、「要介護者」(14.9%)となっている。旅行を主に計画した人もまた「自分」(67.1%)が最も多く、次が「要介護者・自分以外の旅行の同行者」(23.2%)、「要介護者」(6.6%)である。旅行の費用を負担した人も「自分」(71.5%)、「要介護者・自分以外の旅行の同行者」(31.6%)、「要介護者」(23.7%)の順に並んでいる。

旅行の同行者の多くが家族であるという前述の結果をふまえると、旅行の提案者・計画者・費用負担者は、いずれも家族が中心になっていると考えられる。つまり、要介護者の家族のみが旅行の準備から実施までを主に担っている。

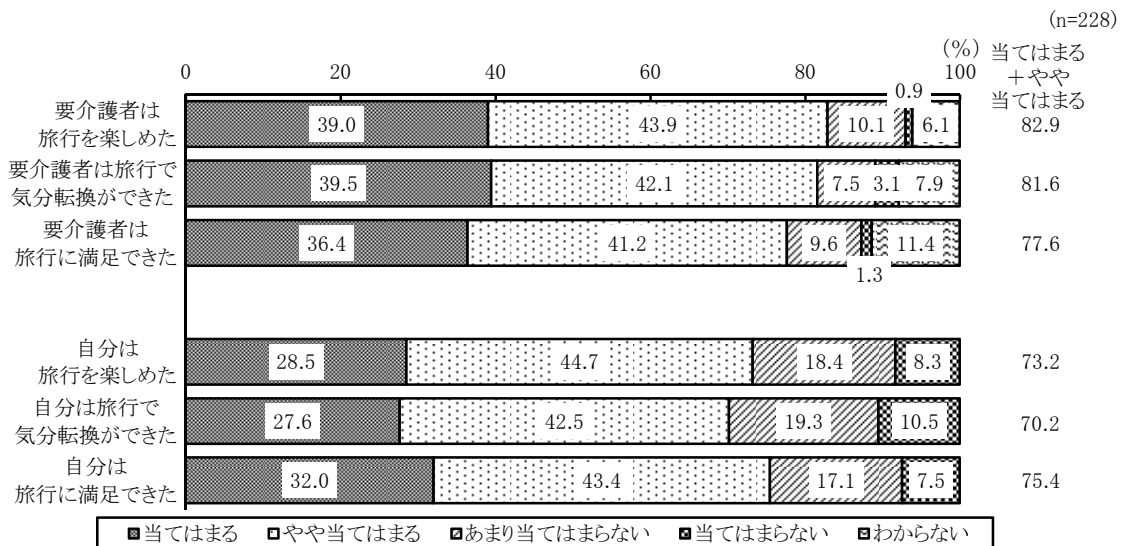
図表8 旅行の主な提案者・計画者・費用負担者 (n=228)



(4) 要介護者との旅行の効用

旅行経験者に対し、要介護者・回答者自身がそれぞれ直近の旅行に対してどのよう感じたかをたずねた。その結果を図表9に示す。

図表9 要介護者・介護者にとっての旅行の効用 (n=228)



注1: 旅行経験者の回答

注2: 「わからない」という選択肢は、回答者に関する質問項目(「自分は旅行を楽しめた」「自分は旅行で気分転換ができた」「自分は旅行に満足できた」)にはない

要介護者が「旅行を楽しめた」「旅行で気分転換ができた」「旅行に満足できた」に当てはまる（「当てはまる」＋「やや当てはまる」）と答えた割合は、いずれも8割前後を占めている（それぞれ82.9%、81.6%、77.6%）。要介護者が旅行で得た効用は、回答者からみると非常に高いといえる。

一方、自分が「旅行を楽しめた」「旅行で気分転換ができた」「旅行に満足できた」に当てはまると答えた割合は、要介護者に比べると低いがそれでも7割を超えている（それぞれ73.2%、70.2%、75.4%）。要介護者ほどでないものの回答者の多くも要介護者との旅行で効用を得ていることがわかる。

3. 要介護者が旅行することに対する考え

(1) 要介護者が旅行することの是非

要介護者が旅行することに対する一般論としての考えをたずねた。図表10の通り、「旅行することは要介護者の心身のためになる」「要介護の親を旅行に連れていくことは親孝行になる」と思う（「そう思う」＋「ややそう思う」）割合は、いずれも7割を超える（それぞれ76.6%、72.0%）。逆に「要介護者が旅行するのはぜいたくである」と思う割合は14.1%に過ぎない。多くの人は要介護者が旅行することに対しておおむね肯定的にとらえている。

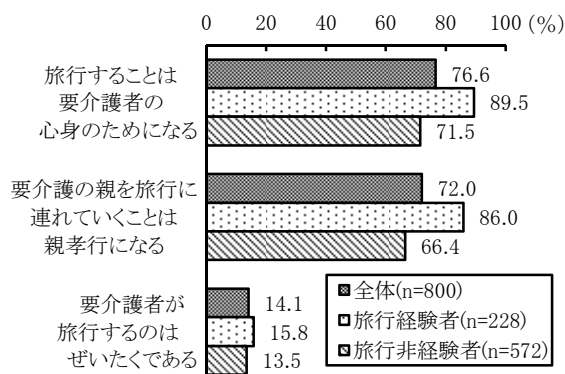
旅行経験の有無別にみると、「旅行することは要介護者の心身のためになる」「要介護の親を旅行に連れていくことは親孝行になる」と思う割合は、旅行経験者のほうがかなり高い。旅行経験者は要介護者が旅行することの効用を実感していると考えられる。一方、「要介護者が旅行するのはぜいたくである」と思う割合は、旅行経験の有無による差がほとんどない。

(2) 自身が要介護になる前後の旅行意向

自分自身が要介護になる前、および要介護になった後に旅行したいと思うかどうかをたずねた。図表11の通り、「自分は要介護になる前に旅行しておきたい」に当てはまると答えた割合は77.3%と高い。一方、「自分は要介護になっても旅行したい」に当てはまると答えた割合は34.6%であった。自分以外の要介護者が旅行することに対しては肯定的にとらえているものの、自身が要介護になった際に旅行することに対してはためらいを感じ、その前になるべく旅行しておきたいという気持ちが生じていると思われる。

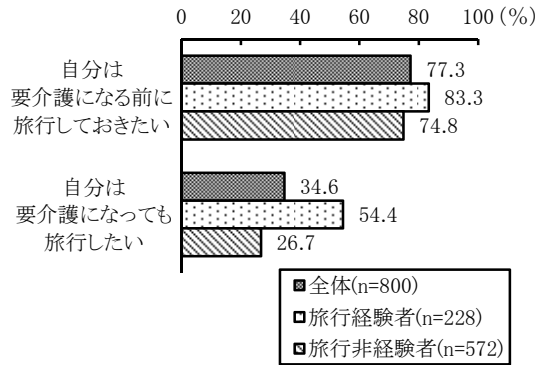
旅行経験の有無別にみると、どちらの割合も旅行非経験者のほうが低い、「自分は要介護になっても旅行したい」でその傾向が顕著にみられる。すなわち、要介護者と旅行したことがない人は、自分自身が要介護になった際に旅行することに対してもより消極的である。

図表10 要介護者が旅行することに対する考え (全体、旅行経験の有無別)



注：「そう思う」と「ややそう思う」の合計

図表11 自分が要介護になる前後の旅行意向 (全体、旅行経験の有無別)



注：「当てはまる」と「やや当てはまる」の合計

(3) 要介護者の旅行環境に対する問題認識・希望

要介護者が旅行する環境に対する問題認識と希望をたずねた結果を図表12に示す。

1) 要介護者の旅行環境に対する問題認識

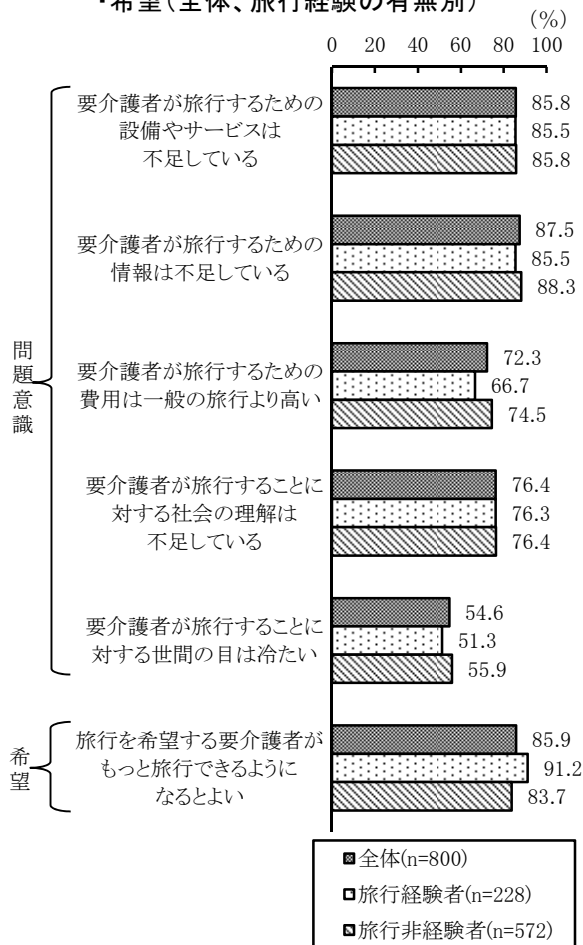
「要介護者が旅行するための情報は不足している」「要介護者が旅行するための設備やサービスは不足している」

「要介護者が旅行することに対する社会の理解は不足している」「要介護者が旅行するための費用は一般の旅行より高い」と思う割合は、順に87.5%、85.8%、76.4%、76.3%、76.4%といずれも高い。つまり、要介護者が旅行するための情報・設備・サービス・社会の理解はともに不足し、費用も高いと多くの人が思っている。旅行経験の有無別にみると「要介護者が旅行するための費用は一般の旅行より高い」と思う割合は非経験者でやや高いが、他の4項目では差があまりない。

2) 要介護者の旅行環境に対する希望

「旅行を希望する要介護者がもっと旅行できるようになるとよい」と思う割合は85.9%を占める。旅行経験の有無別にみると、非経験者(83.7%)に比べて経験者(91.2%)でより高い。

図表12 要介護者の旅行環境に対する問題認識・希望(全体、旅行経験の有無別)



注：「そう思う」と「ややそう思う」の合計

4. まとめ

要介護者の旅行の特徴としては、家族・親戚のみが同行する個人旅行が大半であることや自動車の利用が多いことなどが見出された。これらの結果は、要介護者が見ず知らずの人と団体で旅行することや、公共交通機関を旅行で利用することの難しさを示している。

旅行の効用については、旅行経験者の7割以上が自身や要介護者にとって「楽しむ」「気分転換でき」「満足でき」る旅行だったと答えた。また、要介護者との旅が「心身のため」「親孝行」になると思う旅行経験者の割合は、旅行非経験者よりかなり高い。旅行経験者は要介護者が旅行することの効用を強く感じているといえる。

ただし、要介護者が旅行するための「情報」「設備やサービス」が不足していると思う割合は、旅行経験の有無にかかわらず8割を超える。要介護者との旅行に対して不安を感じたり、旅行時に困難に直面したりする介護者が多い（水野 2012a）背景には、要介護者と旅行するための情報や設備・サービスが十分でない、あるいはあっても知られていないという現状があると考えられる。具体的な課題としては、既述（水野 2012a）のように、情報面では要介護者の旅行に関する情報の充実や既存の情報の周知、設備・サービス面では入浴や移動の難しさを解消するためのサービスの提供や設備の改善などがあげられる。

8割以上の介護者は「旅行を希望する要介護者がもっと旅行できるようになるとよい」と答えている。その思いを実現し、より多くの要介護者やその介護者が旅行の効用を享受できるようにするための環境の整備が望まれる。

（研究開発室 上席主任研究員）

【注釈】

- *1 本稿では介護保険制度における要介護認定を受けていない人も含め、家族に介護されている人を「要介護者」と呼ぶ。
- *2 一般の人の旅行の実態と比較する際には、既存調査の結果（日本観光振興協会 2012など）を参考にしている。

【引用文献】

- ・日本観光振興協会，2012，『平成23年度版 観光の実態と志向－第30回 国民の観光に関する動向調査－』。
- ・水野映子，2012a，「要介護者の旅行を阻害する要因－介護者を対象とする意識調査から－」『Life Design Report』Summer 2012.7.
- ・水野映子，2012b，「高齢者とその介護世代の旅行動向」『Life Design Focus』2012.11.8. (<http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi/focus/fc1211.pdf>)